



発行所 大阪府農業会議 大阪市中央区農人橋2-1-33 JAバンク大阪信連事務センター3階 電話 直通 06(6941)2701~2 http://www.agri-osaka.or.jp 発行人 中谷 清

# 地域計画素案策定支援PT発足

## 支援員が農委をサポート

令和5年4月に施行された農業経営基盤強化促進法(基盤法)の一部改正法に基づき、令和6年度末までに市町村は「地域計画」を定めることになった。農業委員会は農業者の意向を把握し、目標地図の素案作成という重要な役割を担う。

農業会議は素案の策定に向けプロジェクトチーム(以下「PT」)を設置し、新たに設置した支援員が委員会を巡回し、きめ細かなサポートを行う。

今回の改正は、人・農地プランを基盤法で法定化したもの。生産の効率化やスマート農業の展開等に向け、地域において農地が利用されやすくなるよう目指すべき将来の具体的な利用の姿等を描くことを目的としている。

農業委員会組織にはこの姿を描く基となる市街化調整区域内農地の所有者の利用意向を可視化した素案の作成が求められる。具体的には、アンケート調査を行い、その結果を分析して現況

### 年金の受け取りはJAで

JAバンク大阪(JA/信連) 検索

### 主な記事

- ◎地域計画策定 先行地区を紹介...2~3面
- ◎大阪版地域計画リーフ 4面
- ◎四條畷市・農転現地調査 6面

地図を作成。担い手や新規就農者などの農地の受け手と出し手を調整して素案を作成する。

## 話し合いで将来像決定

### 2年間で地域計画策定を

地域計画は6年度末までの2年間という短期間で策定・公告するため、農委・府・市町村・農業会議等の各組織が工程表を共有し、適切に進行管理し、緊張感を持って計画的・効率的に業務を進める必要がある。

府内では36市町村で485地区が策定対象となるが①従来の農委業務の上乗せとなりマンパワーが不足、②所有者ごとのアンケート調査票の作成と効果的な回収手法のノウハウが不足、③素案の作成が不安など、様々な課題がある。

府はこれらの課題に対応するため、農政室推進課に4人の「地域計画推進チーム」を新設し、各農と緑の総合事務所地域政策室には地域計画担当課長補佐を設けた。チーム員は各事務所を分担し、事務所と連携して市町村を支援する。さらに農業

会議に事業委託し、農委に対するきめ細やかな支援を行う。

農業会議はこの府委託事業により農委へのマンパワー支援、アンケート調査票の提供、地図システム導入に対する技術的な支援などを行う。加えて、府チームや各事務所と効果的に連携するため、PT支援員4人が担当地域を決め強力に支援する(詳細2面)。

既に、農業会議は4年度府委託事業として農委に現状調査を行い、そのニーズを把握しており、5年度はこのニーズに応じたきめ細かな支援を行う。

また、人・農地プランは農業者が話し合いに基づき、地域農業における中心経営体、地域における農業の将来の在り方などを明確化し、公表するもので、平成24年に開始された。しかし、プランの中には、地域の話し合

## 風速計

各省の統計や白書、調査報告書を見ると表現の違いはあれど地域社会の今が浮き彫りになる

◆総務省の報告書は「近隣住民

同士の交流は不活発で、地域における町内会・自治会等の中間組織があまり機能せず」と分析。国交省は住民の頻繁な入れ替わりによる「地域への愛着・帰属意識の低下」「地縁的関係を志向しない住民の増加」など、地域コミュニティの衰退を防ぐ観点から問題視している◆内閣府は、「近所付き合いの希薄化」「(他人の関与を歓迎しない)個人主義の浸透」「地域の教育力」の低下を挙げている◆この話を知人は一言で「面倒くさいから」と片付ける。どうすれば、利害も考え方も異なる多様な人たちの自発性を引き出せるのか◆地域政策を考える上では、もはや集落機能を前提とした施策は功を奏さないと考えるべきだ。(鈴木)

(藤岡)

# 地域計画素案策定支援PT

## メンバー紹介

農業会議のPTメンバーを、氏名、役職、経歴の順で紹介。  
 山野純巡回支援員(北部担当)、元豊中市農業委員会事務局 局長  
 横尾五男巡回支援員(中部担当)、元柏原市農業委員会事務局 理事  
 平田裕彦巡回支援員(泉州担

当)、元吹田市農業員会事務局 次長  
 林成俊巡回支援員(南河内担当) ※4年度から市町村を巡回  
 山野、横尾、平田の3人は長年、農委に在籍し業務の細部にまで精通し、豊富な経験と知識を有する。また、支援員以外に、PTを統括する藤岡理事兼地

域計画素案作成PT長(元中部農と緑の総合事務所長)をおき、進行管理と対外折衝を行う。  
 さらに、農政全般の専門知見から北川雅文次長、府との事務調整窓口として増山藤男総務課主幹、地図システム導入の技術的支援として沼田湧悟総務課主事の3人も農委を支援する役割を担うなど、強力な体制を設けている。(藤岡)



沼田、林、山野、平田、横尾、山、藤岡、北川、増山、平田、横尾、山、藤岡、北川、増山、平田、横尾、山、藤岡、北川、増山

# 地区の現状と課題を共有

## 太子町農委・畑地区

太子町農業委員会(金谷和美会長)と畑地区町会は4月16日、畑集会所で地域計画説明会を開催し、地権者など28人が参加した。  
 町会では令和4年8月に意向調査を実施しており、この結果をもとに年齢別・経営意向別の現況地図が作成されている。5年度から貸し手、借り手の調整など具体的な取り組みを進めるが、今回の説明会では町会で課題を共有し、計画策定の意識を醸成するため開



地区の現状と課題を説明

催した。  
 アンケート結果から、世帯数の減少と高齢化、空き家の増加、

後継者不足などの課題が明確となり町会存続の危機にあること、その解決のため

には新規就農者の参入が必要であることを町会長が説明。一方、令和4年5月から町内で新規就農者として営農を開始した者のほか、就農意向を示す4人から問い合わせ等があることなどを報告した。  
 農業委員会事務局からは、地域計画策定の趣旨・目的と作成手順、さらにメリットとして町会には地区の活性化、担い手には補助事業や無利子融資を活用できることなどを説明した。  
 この後、意見交換を行

い、参加者からは①新規就農者に水利慣行を順守してもらうための取組、②果樹など永年性作物は長期貸借が必要だが、将来確実に返してもらえないか不安、③不在地主への対応は誰が担うのかなどの質問が出された。  
 今年冬、町会で新たに3人の農地活性化委員会を組織し、同委員会が貸し手、借り手の間を調整し、双方が納得して地域で農業が営まれるよう取り組んでいくとの説明があった。最後に、出席者に今後とも、地区の荒廃農地の予防・改善活動への協力を依頼し説明会は終了した。(藤岡)

## 月間農政ファイル

3・22〜4・21

3・23 全国町村会は農水省に対して「食料・農業・農村基本法の見直しに関する意見」を提出。食料安全保障概念を明確にするとともに国内農業への関心を高めること、農業政策と農村政策を一体的に検討することなどを要請した。

3・31 農水省は令和4年度食生活・ライフスタイル調査結果を公表。買物で重視する事項の1位は「同じような商品であれば出来るだけ価格が安いこと」(45・1%)、2位は「できるだけだけ日本産の商品であること」(34・4%)であった。

4・14 農水省は食料・農業・農村基本法の検証部会で、農村機能の維持においては主な担い手の他、兼業農家や自給的農家も一定の役割を果たすと指摘。農業者が急減する中でも農地を保全し、水路の管理など地域の共同活動もできるだけ行う必要があるとした。

# 将来像が明らかに

## 羽曳野市農委・碓井地区

羽曳野市農業委員会（京谷理史会長）は2月から3月にかけて碓井地区で地域計画素案策定に向けた話し合いを開催。3月8日には羽曳野市市民会館で3回目の会合を開き、地元農業者20人をはじめ、羽曳野市、大阪府、府みどり公社、JA大阪南など31人が出席した。

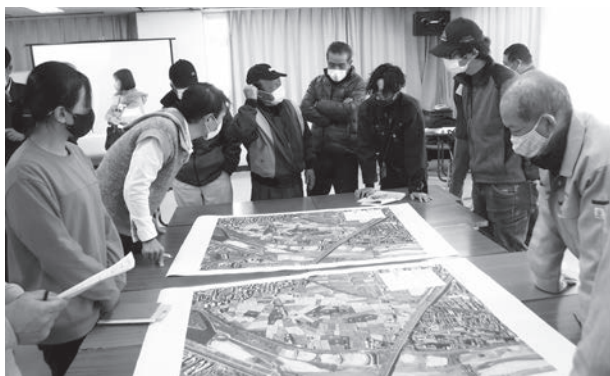
1回目の話し合いでは、昨年

実施した意向調査の分析結果を地元農家に説明。約4割の農地の農業従事者が70歳以上、約5割の農家で後継者がいないか不明であり、将来高齢化が進むと一層の担い手の減少、遊休農地の増加が懸念される。

2回目は、現況地図を基に農地の貸し手と借り手の意向調整及び地区の将来の農業について

の意見交換を実施。農地所有者と担い手との直接のやりとりで双方の希望を擦り合わせ、多くの地区内農地について、どのように集約するかの合意形成が進んだ。

3回目は、この結果を踏まえ、目標地図素案を作成した上で、地域計画で定める項目に基づき、地区の農業の将来のあり方について話し合った。地区における農業の将来像は、地域に根差している「いちじく」「碓井豌豆」等の作目の栽培方法の継承と育成を図ることで合意。また、接道がない、水利が悪いなど営農



貸し手と借り手の意向調整

条件の悪い農地も多いことから、基盤整備を検討するとともに、農業者の学びと交流の場としての農空間の形成を目指すこととした。

農用地の集積、集約化の方針として、認定農業者、認定新規就農者及び予定者ら9人を地区の担い手の中心経営体に位置付け、現状の経営面積3・2畝から5・4畝へ拡大し、新たに入作希望の認定農業者、認定新規就農者を担い手として受入れ促進することを決定した。

今後、関係機関の検討会での協議・承諾を経て、10月までに市農政担当課が地域計画を策定する見通し。

(林)

## 先行地区紹介 計画策定で話し合い

農業経営基盤強化促進法改正を受けて今年度から各地区で順次取り組みが始まっている「地域計画」であるが、前身となる人・農地プランの実質化を継承し、他地区に先行する形で地域計画の策定に動いている事例も見受けられる。

今回は、太子町畑地区、羽曳野市碓井地区、交野市星田北地区の様子を紹介する。

# 農地活用に向け話し合い継続

## 交野市農委・星田地区

交野市農業委員会（友田正直会長）は3月18日、星田神社集会所で集落座談会を開催。友田会長を含む地元農業者7人をはじめ、大阪府、近畿農政局、JA北河内など14人が出席した。

当日は、令和3年度に実施した意向把握調査の結果について報告。年齢や経営意向、後継者

の有無、農地の利用意向などについて調査しており、5年後に引き続き自己耕作すると回答した者は約4分の3を占めているが、70歳以上の所有者が3分の2以上を占め、就農予定の後継者は3割を切る結果となった。

これを踏まえ、事務局より「直ちに担い手不足が顕在化する

その後は、この地域で営農する上で困っていること、今後困るであろうこと等について意見を交換した。農業者からは、農道が狭い、あるいは崩れている箇所があること、ポンプの老朽化や側溝掃除が行われなくなり農業用水にも不便を感じていることなど、ハード面の整備について多くの意見が挙がった。

「直ちに担い手不足が顕在化する」と報告した。

不法投棄といった地域住民とのトラブルに関する課題なども挙げられた。この地域住民の農業理解の醸成の議論の延長として、市民農園の開設なども見越した地域と調和する農業の進め方にも話が及んだ。

同地区では、今後も話し合いを継続し、農地の活用について本格的に議論する見込みだ。

友田会長は、「地域住民の憩いの場所としての農業を目指したい」と話す。

(沼田)



地図をもとに議論を実施

大阪版のリーフレット

# 「地域農業の将来について考えてみませんか? ~『地域計画』のご紹介~」 (抜粋)

地域農業の様々な課題を話し合いで解決に繋げる流れを説明

## こんな悩みや期待を持っていませんか?

- 高齢化で耕作するのが大変
- 後継者がいない
- 農地を貸したい
- 親から農地を引き継いだけど、今後どうしていこう など



- 儲かる農業をやりたい
- 耕す農地を増やしたい
- 有機農業に取り組みたい
- 農業を誰かに教えたい など



## 理想の将来像に向けて地域で考えましょう!



個人で悩んでいても解決できることは少なく、現状を変えるには大きな力が必要です。

### 理想の将来像に向けて 今から地域で考えませんか?

地域で本音で語り合い、  
問題を解決に導きましょう。

そのためには、  
農業者や地域の皆さんの声が必要です。

## 地域計画とは?

地域計画とは、農業者や地域の皆さんの話し合いにより策定される、地域の将来の農地利用の姿を明確化した設計図です。

### 地域計画

#### ① 将来の農地利用を明確化した方針

- どういった耕作者に地域の農業を支えてもらうか
- どういった作物を推奨するか
- 基盤整備事業への取組方針 など



#### ② 目標地図

10年後の農地利用を示した地図  
(誰がどの農地を耕すか)



## 営農の悩みを地域で協議

### 大阪版「地域計画」リーフレット

「〜と題した大阪版の啓発リーフレットを作成した。」

大阪府はこのほど、「地域農業の将来について考えてみませんか?」『地域計画』のご紹介

全国農業会議所作成の啓発リーフレットは、意向把握から地図作成、地域の話し合いを通

じた将来の農地利用の決定(地域計画の策定)に至るまでのプロセスを深掘りしたものとされているが、大阪においては、農地集積による強い農業づくりに加え、多様な農地利用の姿を話し合う必要性もあって、別

途作成したものだ。地域農家が抱える農業上の悩みを、地域での話し合いで解決する方法として「地域計画」があるという導入から始まり、将来の農地利用の姿を考える必要性を取り上げている。

巻末では、計画の実現のために活用できる制度例もあわせて掲載。市町村が単独事業を実施している場合をはじめ、地域の特色に馴染む形で適宜修正を加えて、活用することを想定している。(沼田)

### 人事異動(敬称略)

#### 【農業委員会新事務局長】

(令和5年4月1日現在)

- ▽茨木市 谷田 明夫
- ▽豊中市 山本 貢司
- ▽池田市 西野 健一
- ▽箕面市 西田 昭浩
- ▽忠岡町 坂本 健三
- ▽高石市 藤原 末広

- ▽岸和田市 船橋 恵子
- ▽阪南市 南 憲治
- ▽河内町 中海 幹男
- ▽河内長野市 和田 全功
- ▽松原市 森岡 大樹
- ▽藤井寺市 糟谷 健司
- ▽枚方市 富田 雅信
- ▽寝屋川市 山口 美加
- ▽堺市 小走 伸吾

### 大阪府人事異動(敬称略)

#### 【大阪府環境農林水産部】

(4月1日付け、農業関係のみ、課長級以上)

- ▽部長級
  - ▽環境農林水産部環境政策監 土屋 俊平
- ▽次長級
  - ▽環境農林水産部次長 大武 基

- ▽課長級
  - ▽農政室推進課長 溝淵 直樹
  - ▽同室参事 志摩 暁
  - ▽流通対策室ブランド戦略推進課長 中尾 正信
  - ▽同室市場・検査指導課長 田中 正樹
  - ▽同室参事兼中央卸売市場参事 鈴木 紀之
  - ▽中部農と緑の総合事務所長 中塚 武司

- ▽中部農と緑の総合事務所次長 杉元 岳彦
- ▽南河内農と緑の総合事務所次長 湯佐 宗文
- ▽同地域政策室長 柴崎 高宏
- ▽泉州農と緑の総合事務所次長 石田 修
- ▽中央卸売市場次長 有元 愛彦
- ▽動物愛護管理センター次長 山村 良平

### 調査結果

## 田畑売買価格は小幅下落

### 農作業料金・労賃はまちまち

農業会議では、令和4年度田畑売買価格等に関する調査および農作業料金・農業労賃に関する調査を実施し、その結果をとりまとめた。

田畑売買価格等に関する調査では、農用地区域の耕作目的農地の平均は、水田が10㍻あたり5202千円で対前年比4%下落。畑が425

4円で対前年比3%下落した。価格下落の要因としては、回答数63のうち「兼業化の進行等による労働力不足」が21市町村、

「後継者がいない」が11市町村となり、約50%が農地の担い手不足を理由に挙げた。

また、農作業料金・農業労賃に関する調査では、10㍻当たり

の基幹3作業(耕起から代かき、機械田植、機械刈取)の請負料金の平均は、個人農家で耕起から代かきが3万3328円で対前年比2%下落、機械田植が1万6914円、機械刈取が2万9547円でほぼ前年並の結果となった。



(光崎)

### 「なにわ農業賞」

#### 募集開始 優れた経営体を表彰

農業会議はこのほど、「第24回なにわ農業賞」(後援・大阪府、大阪府農業協同組合中央会)の募集を開始した。

この賞は、先進的な農業経営

によって地域農業をリードするとともに、都市環境の維持・改善への貢献を通じて、府民の大阪農業に対する共感の輪を広げ、大阪農業の存在価値の向上に寄与している農業経営体を顕彰することが目的。

平成12年のなにわ農業賞創設以来、府内の156経営体を受賞してきた。

5月31日(水)までに、農委

### 農業会議人事異動

農業会議は、4月1日付けで事務局の人事異動を発令した。

- ▽異動
  - ▽次長兼総務課長 北川 雅文
  - ▽総務課主幹 中島ちひろ
  - ▽総務課主幹 増山 藤男
  - ▽農政課副主幹 田村 慶
  - ▽地域計画素案策定プロジェクトチーム支援員 林 成俊
- ▽採用
  - ▽参事兼農政課長兼地域計画素案策定プロジェクトチーム長 藤岡 理
  - ▽地域計画素案策定プロジェクトチーム支援員 山野 純
  - ▽地域計画素案策定プロジェクトチーム支援員 横尾 五男
  - ▽地域計画素案策定プロジェクトチーム支援員 平田 裕彦

### 第85回常設審議委員会

農業会議は4月19日、第85回常設審議委員会を大阪市内・シティプラザ大阪で開いた。  
第1号議案の農地法第4条及び第5条の規定に基づく意見聴取に回答する件(高槻市、能勢町、池田市、泉佐野市、泉南市、阪南市、堺市、富田林市、松原

市、羽曳野市、八尾市、枚方市、門真市農業委員会会長) 27件(3万3334平方メートル)を許可やむを得ないと認め、回答することを議決。交野市の地区計画関連議案(2万2729平方メートル)については、委員から、地区計画内域で転用申請に上がっていない農地があるとの指摘があり、市担当者から確認した後日

報告するとの回答を踏まえ保留することに決定した。  
また、3月の常設審議委員会で回答を保留した、四條畷市農業委員会の案件(8549平方メートルの露天資材置場)については、事業者から取り下げ申請が提出された。  
中谷会長は「農業委員会において転用許可基準を熟知し、申

請段階で申請者への適切な指導・審査を行っていただければ常設審議委員会における現地調査には至らず、農地転用許可の適正執行が図れたのではないかと指摘した。

第5条	5万4269
合計	5万6503
(農地区分別件数は、3種農地14件、2種農地13件、1種農地1件)	

### 春の叙勲

#### 齊藤暁氏が受章

令和5年春の叙勲で、大阪府農業会議理事で八尾市農業委員会会長の齊藤暁氏(77)が旭日单光章を受章した。

農業委員会等農業関係団体の要職にあつて、大阪農業の振興に寄与した功績によるもの。同氏は大阪府花き園芸品評会で平成12年度、21年度の2度農林水産大臣賞受賞。



### 営農環境の悪化を防止

#### 四條畷市・農転現地調査

農業会議は3月29日、第84回常設審議委員会(3月20日開

催)で回答保留となった四條畷市の農地法第5条の規定に基づく露天資材置場への農地転用案件について、現地調査を実施した。

当日は、中谷農業会議会長を班長に谷口副会長、河内プロックの常設審議委員など6人が出席。転用事業者と地区担当の農業委員から事情を聴取するとともに、現地の状況を確認した。

調査案件は、転用事業者が奈良県生駒市で利用している既存の露天資材置場を太陽光発電設備の施設用地にするため、現在、置いている建設資材や重機、トラックなどを四條畷市下田原の申請地に移設するというもの。移設先の転用面積は8549平方

### 新会員紹介

#### 大阪市長に横山氏

4月9日、大阪市長選挙の投票が行われ、新たに横山英幸氏が10日付けで大阪市長に就任した。就任日と同日付けで大阪市からの届出により、府農業会議の団体会員代表者に就任した。



### 【第1号議案】

件数	面積(平方メートル)
第4条	2234
5	2234

四條畷市の申請地は、再生コンクリート砕石で盛土を行う計画。盛土の下部からの排水が農業用水路へ混入することを懸念する意見が出された。

生駒市の既存資材置場は、建設資材のほか、残土、再生土などが積み重ねられている状況。申請の理由である太陽光発電設備の設置計画の具体的な内容について、質問が相次いだ。

現地調査班は、転用申請者に対し、申請地における既存の農業用水路への濁水の流入防御対策や、太陽光発電事業の具体的な計画に関する追加資料を四條畷市農業委員会に提出するよう求めた。

### 申請取り下げ

その後、四條畷市農委より転



申請地での現地調査

用事業の計画が大幅に変更することとなったため、転用申請を取り下げる旨の連絡があった。

(北川)



### 「農業をこどもが憧れる職業に」

これは私が農業を始めたときに目標にしたことです。

小さいころ、夏は暑い、冬は寒い、年中ドロドロになる…と農業の嫌なところを知っているが故、

将来は農業とは無縁の生活しようと思いに決めていました。そんな私が農業の魅力を感じるようになったのは自分が母親になつてから。

子どもを通して出会ったお母さんたちに手土産代わりの野菜を渡す度に、「いつも食べている野菜とは全然違う」「野菜を食べない子どもたちが野菜の取り合いをしてびっくりした」「スーパーで買っている野菜と違って味が濃い」といった声を聞くようになりました。私にとつてのあたり前はどれほど有難いことだったのか気づくことができ、野菜のこと、農園のことをもっとたくさんの人に知ってもらいたいという思いが湧き、嫌いであった農業という仕事にも興

味が出てきました。

農業の知識がほとんどない私にも何か武器が欲しい！と当時は農家で野菜ソムリエという方がいなかったのですぐに取得。新たな世界への第一歩が始まりました。

### 「泉州黄玉葱」

を知っていますか？

なにわの伝統野菜の一つに泉州黄玉葱というたまねぎがあります。今井早生、吉見早生、貝塚早生の3つの品種が登録され



三浦農園・野菜ソムリエ

深見 麻衣

## 食育授業で泉州黄玉葱を普及 農業をこどもが憧れる職業に

すぐに今井早生の種を取り寄せ栽培してみた。初年は品種改良しているたまねぎとは比較にならない量の規格外品ができた。固定種ということだけでは年々変化する気温や環境の違いが大きかった。

栽培から出荷まで色んなマイナス部分を目の当たりにし、栽培をやめた理由がわかったが、それよりも泉州黄玉葱が持つ特徴であるUFOのような平べったい形や、水分の多さ、生でか

じつた時のたまねぎらしい辛さや香り、加熱した時の旨味や甘さにびっくりした。同時にこのたまねぎは絶対に途絶えさせてはいけない、そう思った。(現在は今井早生の種の販売が終了し、毎年自家採種し種を繋いでいる。)

未来に繋ぐにはどうしたらいいのかを考えたときに大人はもちろん、子どもたちが知る・食べる・楽しむことができるはず。い

つか学校給食で使ってもらおう。農業の経験、体験を記憶や思い出に残したい。と動き始めました。区画を購入していただく泉州黄玉葱のオーナー制(植え付け、収穫を体験していただき希望があれば草を抜いたりする農作業や見学等いつでもOK)は小さなお子さまから年配の方まで気軽に参加され、年々仲間が増えています。

### 地元小学生の食育授業で

### 「泉州黄玉葱」を普及

地元の小学校で授業をするようになったのは数年前。当時の校長先生は自身が中学校でお世話になった恩師であったこともあり、話をしに行くことができ、い返事をいただくことができました。

1年生で泉州黄玉葱についての学習、植え付けをし、2年生で収穫をする。2年生では生活科の授業でプランターを使って夏野菜を育てるためのポイントを教えている。

「たまねぎの種みたことある?」「みんなが食べているたまねぎってどの部分かわかる?」「泉州黄玉葱知ってる?」「泉州黄玉葱って今、日本で栽培されているたまねぎのお父さん、お母さんのたまねぎや

で!」知つてそうで知らないことを写真など使いながら楽しく分かりやすく説明するのがポイント。小学生に分かる説明は大人にも理解しやすい。小学校での授業は子どもに教えるだけでなく、私自身がこどもたちにも教えてもらっていることも多く、とても良い経験になっています。

最近では泉州黄玉葱を年中いつでも楽しんでいただけるように開発した泉州黄たまねぎ糍キット等、企業の方がコラボ商品を作ってくださるようになり、一般の方にも少しずつですが認知され始めました。

これからも一人でも多くの人に泉州黄玉葱を知ってもらい、食べていただくことで私たちと一緒に楽しみながら未来に繋いでいきたいと思います。

今後は植え付け、収穫体験だけでなく収穫した野菜を使った子ども向けや親子参加型のワークショップなど『知る・食べる・楽しむ・繋ぐ』楽しいイベントをたくさん開催していきたいです。

### ◇筆者の紹介(ふかみ まい)

泉佐野市の農家の娘に生まれ、農外の道に進み結婚。専業主婦を経て現在は中学生と小学生の2児を育てながら、実家の三浦農園で農業に携わる。平成28年に野菜ソムリエ資格取得。

# JA全農

## 価格転嫁の理解を呼び掛け

界です。

どうか、高騰し続ける生産コストに見合う持続可能な価格を認めてください。

それが食の安全・安心を守ることにつながり、日本の農家と消費者、そして食の流通に関わるすべての人の未来を守ることにつながると信じています。

これからも持続可能な農業経営ができるよう、ぜひ、この問題を一緒に考えてください。

### ②生産者の声版

いま、様々な世界情勢の影響でかつてないほど高騰している農畜産物の生産コスト。それが

①SDGs版  
安さは正義だ。そんな風潮の中、なんとか頑張ってきた日本の農畜産業。もう限

全国農業協同組合連合会はこのほど、生産コスト上昇分の価格転嫁について消費者や事業者に理解を求めるためのポスターを作成し、3月末には新聞各紙に広告を掲載した。

価格にしっかりと反映できていないことを知っていますか？  
みなさまの食卓に安全・安心でおいしい食べものを届けたい。その一心でこれまでやってきましたが、もう限界です。

これからも収穫や生産のよろこびを感じたい。日本の食を支えているという誇りを胸に、この仕事を続けていきたい。

これから先も、国産の農畜産物が食べられる日本であるために。どうか、これからも持続可能な農業経営ができるよう、生産コストに見合った農畜産物の価格を認めてください。そして、私たちが愛情かけてつくったものを食べることで、日本の農家

を応援してください。

### ③消費者の声版

毎日食べている新鮮でおいしい食べもの。世の中のあらゆるものが値上がりしている中、農畜産物がそこまで値上がりしていません。我慢しているから、だったのですね。

私たちが食べて笑顔になるだけでなく、それを届けてくれる農家さんも笑顔でいてほしい。安全・安心でおいしいものをつくり続けてもらうために私たちができることは、国産のものを選ぶことくらいかもしれないけれど、これからも変わらず、おいしくたくさん食べることで農

家さんを応援したい。それが、子どもたちの未来になる。

国産の食べるものをつなぐことになる。そう信じています。

SDGsの時代に、日本の農畜産物が持続可能な価格で売られていないのはなぜだろう。



安さは正義だ。そんな風潮の中、なんと頑張ってきた日本の農畜産業。もう限界です。

これからも持続可能な農業経営ができるよう、生産コストに見合った農畜産物の価格を認めてください。

国産を食べるよろこびをこれからも。



①SDGs版

私たちは笑顔で食べているのに農家さんが泣いていたなら、いやだなあ。



毎日食べている新鮮でおいしい食べもの。世の中のあらゆるものが値上がりしている中、農畜産物がそこまで値上がりしていません。我慢しているから、だったのですね。

国産を食べるよろこびをこれからも。



③消費者の声版

収穫をよろこべない。こんな悲しい仕事はありますか。



いま、様々な世界情勢の影響でかつてないほど高騰している農畜産物の生産コスト。それが農家さんに家や安心しておいしく食べものを届けてたい。その一心でこれまでやってきたが、もう限界です。

国産を食べるよろこびをこれからも。



②生産者の声版